

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2670200217
法人名	株式会社 ウェルネット
事業所名	洛和グループホーム円町
所在地	京都市上京区下立売通御前西入大宮町498-1 (電話) 075-466-5858

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年8月25日
評価確定日	平成20年10月23日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,266 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2		3 名	
要介護3	3 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和ヘルスケアシステムの中のグループホームの一つです。京都の落ち着いた町並みのアパートの2階部分をグループホームとして改装し、ゆっくり寛げるように職員の工夫や配慮もあり、利用者は落ち着いて生活されています。職員は利用者との関係性を築かれており、一人ひとりのペースに合わせながら、自由に過ごす事でその人らしい生活ができる支援を大切にされています。ホームの運営にも法人からのバックアップ体制が整っており、職員育成に体系的に研修が行われたり、記録方法も全職員が利用者一人ひとりを理解できるように工夫し、職員の質の確保・向上に向けて前向きに取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で確認した改善点については、カンファレンスで報告をし職員間で話し合い、ホーム独自の理念を地域につなげて掲げています。事業所独自の理念を掲げたり、段差のあるところにつまずき解消のために目立つようテープ貼ったりハード面の工夫をしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、自己評価は職員で分担し記入したものを、職員全員が目を通し、意見を出し合って管理者がまとめて作り上げました。結果については、職員間で話し合い改善点を把握し、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催しています。ホームの行事や外部評価結果の報告、予定と状況変化、取り組み等について話した後、情報交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの玄関に、意見箱を設置したり、家族の来所時や電話などで希望や要望を聞くように心がけています。家族に年に2回、満足度調査アンケートを実施し、その結果を法人として集計して課題を明確にし、全職員で話し合いサービスの向上に努めています。重要事項説明書にも明確にしています。運営推進会議でも意見、苦情、不安を聞く場になっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板で地域の行事等の情報を得て、カラオケ大会、ダンスに参加しています。また、年に2回、保育園児が来所し、ゲーム、紙芝居、歌会等の交流があります。日々の暮らしの中で、散歩の際、顔見知りの方やお店の方と立ち話をしたり、毎年、鈴虫を近隣の方に頂いたり、地域の住人とのつきあいも大切にしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の掲げた理念を基に、ホームでは職員と共に作った「地域の中で地域と共に寄り添って、その人らしく過ごしていただけるケアを提供いたします」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関に掲示している。理念を目標として掲げられて満足するのではなく、毎月のカンファレンス時に、理念に基づいたケアが実践されているかを確認したり、実践に向けての取り組みを話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板で地域の行事等の情報を得て、カラオケ大会、ダンス等に参加している。また、年に2回、保育園児が来所し、ゲーム、歌会等の交流がある。日々の暮らしの中で、散歩の際、顔見知りの方や魚屋さんと話をしたり、鈴虫を近隣の方に頂いたり、地域の住人とのつきあいも大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価は職員で分担し記入したものを、職員全員が目を通し、意見を出し合って管理者がまとめて作り上げた。評価結果を活かすために、会議で報告し話し合い、改善課題に取り組んでいる。事業所独自の理念を掲げたり、段差のあるところにつまずき解消のために目立つようテープ貼ったりハード面の工夫をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。ホームの行事や外部評価結果の報告、予定と状況変化等、取り組みについて話し合っている。報告や情報交換のみに終わってしまうこともある。	○	運営推進会議を通じて、地域の自治会や老人会の活動への参加や気軽に訪問してもらえるホーム作りについて話し合いをされると、更に良いのではないのでしょうか。

洛和グループホーム円町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、区の事業者連絡会、会議等に出席している。法人グループホーム統括者が情報交換や手続き等をして、当ホームの管理者に報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や、日々のバイタルサイン、食事量、入浴状況などを記載したチェック表や行事報告を載せたホーム便りを作り、預かり金の出納帳と領収書と一緒に、毎月家族に郵送している。また、誕生日月には、お祝いの様子を写真にとり、それを載せた誕生日新聞を作り送っている。体調の変化や薬の内容が変われば、その都度連絡しホームでの個々の暮らしがわかるよう家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に、意見箱を設置したり、家族の来所時や電話などで希望や要望を聞くように心がけている。家族に年に2回、満足度調査アンケートを実施し、その結果を法人として集計して課題を明確にし、全職員で話し合いサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員との面接や日々コミュニケーションをとるように努めている。法人としては職員退職希望者面接シートを独自で作し、法人の幹部と個別面談し、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。職員の交代がある場合には利用者の混乱を防ぐ上で、前もって利用者には伝えないようにし、新しい職員と馴染みの関係が自然にできるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育は法人により体系的に研修が行われている。3年の実務経験者より一人ずつ、認知症実践者研修に参加したり、内部、外部研修共に受講できるよう計画が立てられている。研修記録を回覧し、伝達研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症実践者研修の交流の場で意見交換したり情報を得る場となっている。業務委員会で話し合ったり、ブロック会議で情報交換して、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学に来ている。入居相談員が対応し、入居前、自宅に訪問し生活環境や行動を把握し馴染みの家具等相談して持ち込んでもらっている。入居後は時間をかけて慣れるまでは、常に声かけ目配りをしホームの雰囲気に馴染めるようなコミュニケーションを大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常にスキンシップを大事に図っている。互いに喜怒哀楽を共有し、一緒に生活していることを実感しながら支援をしている。人生の先輩として調理、掃除、昔ながらのしきたりやしつけを自然に教えてもらったり、叱られたりできる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントで把握し、全職員は毎日の暮らしから利用者一人ひとりの些細なこと聞き対応している。気づきをメモにとって情報を共有しサービスの向上に活かしている。困難な場合には常にスキンシップを図り、表情から把握したり、その方の気持ちになるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式とホーム独自の用紙を用いて把握した入居者の思いや意向を職員間で共有し、カンファレンスに反映させ、介護計画を作成している。また、介護計画の実施に当たっては、その項目をわかりやすく記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居日から1週間、1ヶ月、3ヶ月と見直しの期間を設定している。その後は3ヶ月ごとの定期的に見直しをして、状態の変化時には随時対応している。見直しの際には、センター方式の追加項目や変更項目も振り返り、その時々のアセスメントも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の会話の中から行きたい所を聞き出し、担当職員が計画を立て、年1回個別外出の支援している。日常の中でも買い物、外出の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。提携医は月に2回、歯科医は毎週往診を受けている。週1回、訪問看護師に健康チェックに来てもらい、24時間対応が可能な体制が整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りの指針を説明し同意を得ている。個々の状況に応じて、ホームでの対応やケアについて訪問看護からの指導を受けながら対応できる体制がある。現在までには、対象者はいないが、今後、状況に応じて家族や医師と相談しながら、細やかな対応を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と職員の馴染みの関係作りの中で一番良い関係作りの言葉掛けに心がけている。接遇の研修にも参加している。個人情報のファイル等は適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとり、おおよその日課や過ごし方を把握した上で、日々の意向を聞き自由に過ごせるよう支援している。外に出たそうにされているのであれば、ひきとめずに職員と一緒に外に行き、できる限り思いに添うよう対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者のできること、やりたいことを考慮し、食材の皮をむいたり、刻んだりして食事を職員と共に作り、配膳、片付けもしてもらっている。職員と一緒に食卓を囲み同じ食事を食べながら、さりげない言葉かけをしサポートしている。食材の買い物にも行くこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、一人ひとりに声かけをし、午後1時より寝る前の間で入浴してもらっている。希望があれば、午前中でも入浴でき、どの利用者も2日に1度は入浴できるように支援している。入浴拒否のある利用者に対しては無理強いせず、タイミングを図り、職員の声かけの工夫で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ご自身の部屋の掃除と洗濯物干し、洗濯たたみ等の家事を日常生活の中で役割としている方がいたり、季節事の作品作り、毎週アートセラピーがあり、色々な作品作り等の趣味活動を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝、夕方に声かけし、買い物に行ったり、職員が付き添える時には一緒に散歩に出かけている。外出希望のない利用者があり、ホームの廊下を歩いたり、外を眺めたりできるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、センサーを用いて見守りを行っている。鍵をかけることの弊害は、職員全員が理解しており、拘束感のない生活の支援を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署とオーナー参加で消火器の使い方などを含めて昼夜想定での避難訓練を行っている。2ヶ月に1回グループホーム独自の避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を記録に残し、食事摂取量は毎食チェックし記録している。水分摂取量はこまめに摂取できるように支援している。食事については、検食担当者が食事内容の評価をし記録している。また、入居者の咀嚼・嚥下能力、状態に合わせて、刻み食やミキサー食、粥食などの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの居間には、季節を感じる鈴虫が鳴き、利用者の作品も飾られ、一人ひとりが過ごしやすいように家具が配置され、落ち着いた家庭的な雰囲気を大切にされている。蛍光灯には、和紙でカバーがしてあり、優しい光になるよう配慮されている。所々にソファやイスが置かれ、一人になれる落ち着いた居場所が確保されている。浴室には温泉マーク、トイレにはシールを貼り、わかりやすく温かみが出るように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室になってはいるが、それぞれの生活に合わせて家具やベッド、テレビ、仏壇、写真等、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい居心地良く安心して過ごしてもらえるよう支援している。		